

交流及び共同学習について～共に育ち、共に学ぶ～

障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒が、触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、どちらにとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会になるなど、大きな意義を有するものです。(令和7年3月 交流及び共同学習にかかるガイドより)

～本校では、同じ地域の子どもとして、共にそして自然に触れ合う関係を大切にします～

居住地校交流の様子

令和7年度は、小学部23名、中学部8名が交流を行いました。

【小学校の活動例】

- ・生活科
(手作りおもちゃ、クリスマス会)
- ・図画工作(制作活動)
- ・体育科
(プール、ボール運動、雪中運動)
- ・家庭科(調理実習)
- ・特別活動(お楽しみ会)



【中学校の活動例】

- ・音楽科(合奏、お琴)
- ・保健体育科(ボッチャ)
- ・家庭科(調理実習)
- ・理科(実験)
- ・美術(制作活動)
- ・特別活動(ゲーム、レクリエーション)
- ・学校行事(なべっこ)



ねらい

～特別支援学校の児童生徒にとって～

自分が住んでいる地域で人間関係を広げ、豊かに暮らしていくために、地域の同年代の児童生徒と交流を深める機会となります。また、同学年の集団での各教科等の学習を通して、多様な考えに触れ、社会性や豊かな人間性を育むことも期待できます。

～小・中学校の児童生徒にとって～

地域の仲間として特別支援学校の児童生徒と関わりながら、お互いのことを正しく理解し、共に助け合って支え合って生きていくことの大切さを学ぶ機会になります。また、言葉を掛けて手助けをしたり、積極的に支援を行ったりする行動など、障害に対する理解を自然に深めていくことも期待できます。

心のバリアフリー授業(障害理解授業)

交流活動をする前に、事前の学習をすることでより自然に関わったり、学び合ったりする交流になることが期待できます。

居住地校交流事前学習ができます

支援学校教員が学校を訪問し、子どもたちや先生と一緒に、楽しみながら障害を知る機会を作ります

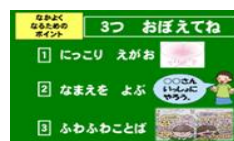
- ① 比内支援学校ってどんな学校？
- ② 交流する児童生徒をよく知りたいな
(得意、困り感について)
- ③ どのようにお話ししたらいいの？
(仲良くするためのポイントの確認と体験活動)



心のバリアフリー授業(障害理解授業)ができます

(小・中・高等学校通常学級での授業)

障害の有無に関わらず、互いを尊重し合えるためには、障害がある人に対する理解や一人一人が違っていいんだ！という自然な感覚を身につける機会をもつことが大切です。心のバリアフリー授業(障害理解授業)のお手伝いができます。御相談ください！



秋田県立比内支援学校

教頭:布田 美香子

地域支援部主任:根本 陽子

〒018-5741 秋田県大館市比内町達子字前田野1-2

電話 0186-55-2131 FAX 0186-55-2132

E-mail hinai-s@akita-pref.ed.jp